

3 月度ヒヤリハット報告会

令和 4 年 4 月 30 日
富岡東
長谷川

開催場所：当事業所内
参加者：各スタッフ

利用者 N 様の事例について

事例 5 状況・経緯	昼食後薬の際に、利用者 N 様の手のひらに 3 錠お渡ししたが、飲み込む際に 1 錠落としてしまった。すぐに見つけたため、服用して頂いた。
事例 7 状況・経緯	入浴時、利用者 N 様が湯船に浸かり座る際に、中腰のまま湯船のフチに掴んでいた手が滑り体勢が傾いた。
事例 1 2 状況・経緯	食事中に利用者 N 様が鶏肉を喉に詰まらせ咽せ込みがあった。事象前後の変化は特になく、大事には至っていない。

利用者 N 様の特徴

- ・週 5（月～金）デイ利用
- ・杖歩行
- ・ADL 概ね自立している
- ・来所時から情緒不安定な事も多く、帰宅願望が強い。
- ・食事形態一口大で提供しているが、あまり咀嚼せず丸飲み傾向。

発生した要因

事例 5

- ✓ 本人の体調やメンタル面から物事に集中できていなかったのではないか（三浦）
- ✓ 手の中心に薬が寄っていなかった事による落下ではないか（中山）
- ✓ いつもまとめて服薬していたので、同じように渡してしまった（田中）
- ✓ 今まで問題なくできていたので、疑いなく手渡ししてしまった（飯塚）
- ✓ 落薬リスクを考慮していなかった（生方）
- ✓ 手のひらへの薬の置き方に問題はなかったか、平たい状態で私口ではないか（別府）
- ✓ ADL が自立している為、問題ないと判断した（杉本）
- ✓ 口に放り込むように当該利用者様が服薬したのではないか（平間）
- ✓ 放り込むような服薬の仕方をしていて、口腔内に入る前に落薬するリスクがとても高く本人が注意散漫
- ✓ 傾向にある事と相まって起きたものではないか。（長谷川）

事例 7

- ✓ 足が痛いという訴えがあるため、バランスを崩す要因となったのではないか（三浦）
- ✓ 浴槽の手摺りがないフチ側に体重がかかっていたのではないか（中山）
- ✓ 今まで安定した状態で浴槽に入れていたので、大丈夫と思ってしまった（田中・別府）
- ✓ 力を緩めるタイミングがずれてしまったことによるものではないか（飯塚）
- ✓ 石鹸泡が十分に洗い流せていなかったのではないか（生方）
- ✓ 入浴時フラツキの恐れがあると考えていなかったのではないか（佐藤）
- ✓ 浴場では滑る前提で支援を行うべきだったが、大丈夫と判断した為（杉本）
- ✓ 当該利用者様が湯船で座るまで介助者がすぐ支えられる様に手を伸ばしていなかったのではないか（平間）
- ✓ 階段昇降や歩行時も他に意識が向いている事が多く、物事に集中できなくなっている（長谷川）

事例12

- ✓認知症が進み、判断力の低下が顕著に現れ咀嚼・嚥下能力によるもの（三浦・佐藤）
- ✓当該利用者様が普段より租借をせず飲み込む傾向にある為、食形態に問題があった（中山）
- ✓いつもまとめて服薬できていたので、同じように渡してしまった。（田中・別府）
- ✓従来はどのおかずも小さくカットせず提供した状態で召し上がっていたので、咀嚼できていると思い込んでいた（田中）
- ✓食事のみならず物事に注意を向ける事が難しくなっているのではないかと（飯塚）
- ✓正しい姿勢で食事をしていなかったのではないかと（生方）
- ✓嚥下状態が落ちていると覚えていなかった（佐藤）
- ✓刻みの程度を把握できていなかった（佐藤）
- ✓鼻の詰まりや様々な要因により、高齢者は喉が狭くなる傾向にある為（杉本）
- ✓一口大での食事に限界がきているのではないかと（平間）
- ✓事例7と同様、食事中も他利用者様に目と意識が向けられ、目の前の物事に集中できていない（長谷川）

その他

- ✓3つの事例に共通して、大丈夫という感覚でいたのではないかと（佐藤）
- ✓自立している為、大丈夫という気持ちがあった事・見守り低度だったのではないかと（古田）
- ✓大丈夫という思い込みではないかと（菊地）
- ✓日々の変化に気付いていなかった。（菊地）

再発防止に向けた取り組み

事例5

- ✓内服中はよそ見せず集中して頂く事、状況に応じてスプーン等を使用する（三浦）
- ✓別の利用者様と同様の事例を発生させてしまい、以降は1錠ずつ飲んで頂くようにする（中山）
- ✓2錠以上の場合、1錠ずつ口にスプーン等を使用して服薬して頂くのはどうか（田中・杉本）
- ✓スプーンや小皿を使用し1錠ずつ服用するよう声掛け（生方・佐藤・別府・長谷川）
- ✓手のひらに窪みを作り、1錠ずつ手のひらに置く。（別府）
- ✓ゆっくりと飲んで下さいと声掛けをする（平間）
- ✓本人の「出来る」と他者「出来る」の認識違いが存在すると思うが、その線引きを精査が必要（島崎）

事例7

- ✓介助しやすい位置にて見守り、声掛けによる誘導を行う。（菊池・佐藤）
- ✓両手で壁側の手摺りを掴んだまま、浴槽に浸かって頂くよう声掛け（中山）
- ✓手や足が滑る・フラツキの可能性があるので、浴槽で座るまで介助できるようにする（田中）
- ✓石鹸泡等の残りが無いようよく流し、一動一声を行う（生方）
- ✓高齢者に限らず、「いつ何が起きるかわからない」という緊張感をもち、不測の事態に備えておく（別府）
- ✓浴槽内では、必ず傍にいて御本人様が拒否なければ起位動作の際は必ず身体の一部に触れて支えることが出来るよう介助者は意識する（杉本）
- ✓利用者様の身体に触れるか触れないかくらいに手を伸ばし、座って頂くまで支えられる体勢で見守り（平間）
- ✓準備及び体勢を整えてから行うことが望ましい（島崎）
- ✓動作前に本人の手・浴槽フチや手すり各所をタオルで拭く等し行う。（長谷川）

事例12

見守り、食事形態変更（実施済）、食べやすい柔らかい食品の提供（三浦）

食形態が刻みに変更されたが、食事中は水分を適宜摂取し咀嚼してもらう声掛け（中山・生方）

鶏・豚肉等の片面食材は食べやすい大きさにカットして提供する（田中・佐藤）

配食の際に、食形態のチェックしてからお渡しする（別府）

しっかり咀嚼し飲み込む様、また一度に多く詰め込まない様に声掛けを行う（杉本・平間）

事例5と同じ、食事に集中出来る環境を作る必要がある（島崎）

他

一見自立している利用者様でも見守りを適宜する。（菊地・佐藤）

右大腿骨の骨折歴あり、手を添える時も抱えるように介助（古田）

浴室内の滑り止めタオルを敷く等の対策をする（佐藤）

その他ヒヤリハットについて

N様については最近、泣いていたり気分が落ちている事が度々ある。（三浦）

行動を抑制することにより起因しているものか、関わり方で本人が落ち着いて過ごせると思う。（三浦）

ヒヤリ発生時に記入後、スタッフ間で話し合う場を設けるのが理想だが現状難しい（生方）

見もせず意見書についても「問題なし」と書くスタッフ程、事故報等の案件が顕著に出ている事に気づけていない（島崎）

少しずつではあるが、スタッフに浸透して効果が出て気ではないのでしょうか（別府）

（別紙事例16）について週末分の薬がないことに気づかず訪問に出してしまった事を、ヒヤリとして報告するという気が回っていなかった。（中山）

事例一覧に目を通すことで、気のゆるみを猛省する事ができた。（中山）

対策として訪問ノートの表紙に注意書きを貼り付けした。（中山）

総括

✓ 偏ったスタッフによる過度な声掛けや見守りは、かえって利用者様を不快にする恐れがある。

✓ 服薬方法について、利用者様それぞれに適した方法を精査し周知させる必要がある。

✓ 当該利用者様が快適に過ごせるような環境を整備してあげたい。

✓ 動作の前には必ず環境整備を怠らない。

本プロジェクトを開始して約半年が経ち、周知せずとも報告書が上がるフェーズへ着実に近づいた。

書面での意見を取り入れることでスタッフのヒヤリハットへの意識が格段に向上したが、報告会そのものへ参加するスタッフは未だ限定的で全員参加は現実困難である。

服薬方法については、独自のマニュアルを事業所内で作成することとなった。

当該利用者様の過剰な対応及び声掛けが特定のスタッフという問題が浮上し、スタッフ間の声掛けを積極的に行い出勤するスタッフ同士で満遍なく接することで環境改善を図る運びとなった。